

参加無料

## 日本語学習支援ネットワーク会議 2014 in 青森



東北各地の日本語支援者が集まる「日本語学習支援ネットワーク会議」が青森県で初めて開催されます。青森では、新たに「訪れる」人たちに日本語・日本文化・地域文化をまるごと体験してもらう「グリーン・ツーリズム」が盛んに行われています。グリーン・ツーリズムからは、（一方的に）教える・教わる、あるいは地域に馴染ませる、共存するという従来の支援の在り方では見えなかった思いや必然性、可能性を見出せるのではないのでしょうか。

そこで、この会議ではグリーン・ツーリズムの政策立案や企画、運営に関わる方をはじめ、実際に外国人を受け入れている農家の方、定住外国人の方などをお招きし、グリーン・ツーリズムを通じた新しい日本語支援の形について考えます。

## 2014年11月1日（土）青森中央学院大学 921 講義室（学術交流会館 2 階）

10:20 開会

10:30-12:00 パネルディスカッション 「グリーン・ツーリズムを通して見た外国人支援の形」

青森県農林水産部構造政策課主幹	福士 孝一氏
青森中央学院大学国際交流課課長	三浦 浩氏
アジアからの観光客誘致推進協議会副会長	田中 久子氏
国際文化交流クラブ副会長	太田 ミハイ氏
司会 弘前大学国際教育センター准教授	鹿嶋 彰氏

12:00-12:50 昼食休憩

12:50-13:50 基調講演「外国人散住地域での言語権の保障と『やさしい日本語』

1. 17、10. 23、3. 11—外国人住民は災害下でどう情報を得ていたか」

弘前大学人文学部教授 佐藤 和之氏

14:00-16:00 分科会

①子どもの支援について ②青森県の日本語学習支援グループによる実践報告

申し込み・問い合わせ：青森中央学院大学経営法学部 田中真寿美

お名前（ご所属）・ご連絡先を明記し下記までお申込みください。

(Email) masumi-tanaka@aomoricgu.ac.jp

(Fax) 017-738-8333

(Tel) 017-728-0131（国際交流課）

●基調講演 要旨

「外国人散住地域での言語権の保障と『やさしい日本語』

1. 17、10. 23、3. 11—外国人住民は災害下でどう情報を得ていたか」

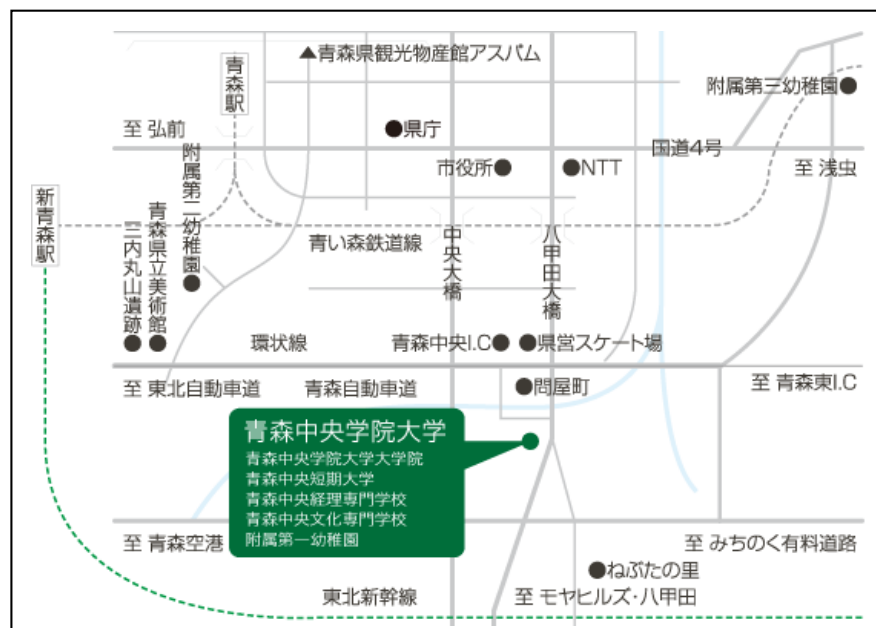
弘前大学人文学部 佐藤 和之

神戸市は外国人居住者の多い都市ですが、1995年の阪神淡路大震災（以下阪神大震災）では、災害下での外国人対応の遅れや外国語での情報の少なさが大きな社会問題となりました。その後2004年の新潟県中越地震（以下中越地震）や2011年の東日本大震災を経験することで、阪神大震災からの学びを活かした外国人への支援活動が大きく発達しました。避難情報や支援情報はそれまでに比べ、さまざまなことばを話す外国人にも伝わるようになりましたから、阪神大震災のときの課題はしだいに改善されていっていると思います。

なかでも東日本大震災での多文化共生マネージャー全国協議会の「災害時多言語支援センター」（以下タブマネ支援）や仙台市国際交流協会の「仙台市災害多言語支援センター」（以下仙台市支援）の迅速な設置と支援対応は象徴的です。タブマネ支援は10の言語で、また仙台市支援は4言語での情報伝達をしていて、その10言語の一つ、4言語の一つが「やさしい日本語」でした。日本語とは別に用意された言語ですので、この意味で「やさしい日本語」は、外国人が理解しやすい外国語の一つとしての役割を担ったこととなります。

日本語学習支援ネットワーク会議2014では、これまでの20年で日本が経験した大規模地震から学んだ重要な3つの課題を情報や表現に限定して話します。そしてそれらを解決する「やさしい日本語」の効果とその信頼性について概略します。

●青森中央学院大学 〒030-0132 青森市横内字神田 12



- ・当日は大学のカフェテリアは営業していませんが、休憩場所として利用できます。
- ・徒歩圏内にコンビニがあります。